



「デコ活」～暮らしの中のエコろがけ～

脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動

地球環境局 デコ活応援隊（脱炭素ライフスタイル推進室）

令和8年8月



【参考】「デコ活」の背景（1/2）

○脱炭素の実現に向けては、2030年家庭66%、運輸35%、非エネ14%、業務51%削減など、暮らしの分野でも大幅な削減が求められます。

地球温暖化対策計画（令和3年）の概要

温室効果ガス排出量・吸収量 (単位：億t-CO ₂)		2013排出実績	2030排出量	削減率	従来目標
		14.08	7.60	▲46%	▲26%
エネルギー起源CO ₂		12.35	6.77	▲45%	▲25%
部門別	産業	4.63	2.89	▲38%	▲7%
	業務その他	2.38	1.16	▲51%	▲40%
	家庭	2.08	0.70	▲66%	▲39%
	運輸	2.24	1.46	▲35%	▲27%
	エネルギー転換	1.06	0.56	▲47%	▲27%
非エネルギー起源CO ₂ 、メタン、N ₂ O		1.34	1.15	▲14%	▲8%
HFC等4ガス（フロン類）		0.39	0.22	▲44%	▲25%
吸収源		-	▲0.48	-	(▲0.37億t-CO ₂)
二国間クレジット制度（JCM）		官民連携で2030年度までの累積で1億t-CO ₂ 程度の国際的な排出削減・吸収量を目指す。我が国として獲得したクレジットを我が国のNDC達成のために適切にカウントする。			-

出典：地球温暖化対策計画 概要

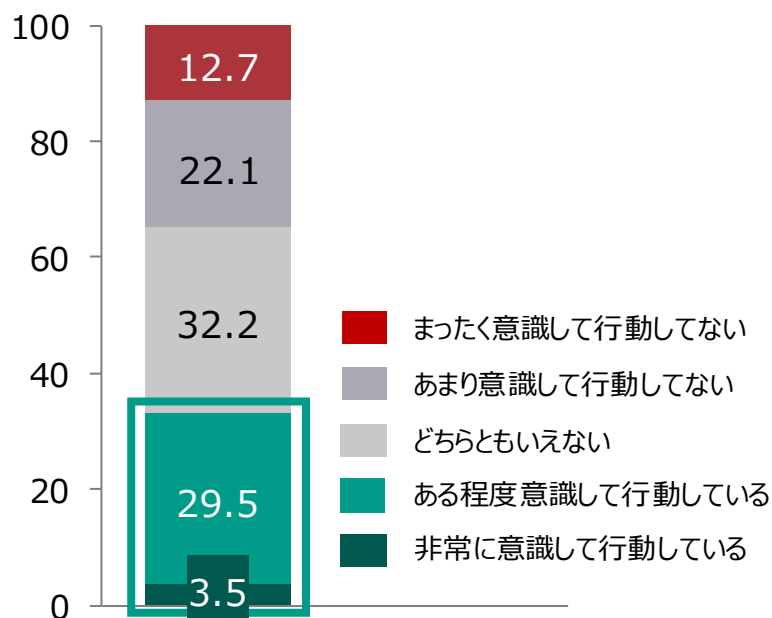
【参考】「デコ活」の背景（2/2）

○ 9 割の方々が脱炭素という用語を認知している一方、そのために何をしたらよいか分からないなど、具体的な行動に結びついていない状況にあります。

「脱炭素」という言葉を知っている人は90.8%、
行動に移している人は33.1%

脱炭素について若年層では、「よくわからない」、
「意識・貢献できる瞬間がない」と回答した人が約 6 割

どの程度脱炭素社会に向けた行動をしているか
(%)



脱炭素社会の実現に向けて取り組むことについて、
正直どのように思うか（とてもそう思う＋そう思う）
（10代～20代の回答）

	(%)
正直、よくわからないので、やるべきことを決めてくれたら従う	59.4
正直、意識・貢献できる具体的な瞬間がない	58.5
正直、自分一人でもやっても変わらない	56.9
正直、取り組むモチベーションが続かない	50.2

出典：博報堂「第二回 生活者の脱炭素意識&アクション調査」～2022 年 3 月調査結果～

「デコ活」の全体像（脱炭素につながる将来の豊かな暮らしの絵姿）

○2030年代にかけ、**生活がより豊かに、より自分らしく快適・健康**で、そして2030年温室効果ガス削減目標も同時に達成する「新しい豊かな暮らし」を提案をします。



国民運動の愛称「デコ活」

○2023年7月に愛称が「デコ活」に決定し、同年8月、ロゴマーク、メッセージ、アクション等も決定しました。



愛称

国民に広く公募し（8,200件の応募）、愛称公募選定会議で「デコ活」※に決定（生みの親↑）
※二酸化炭素(CO₂)を減らす(DE)脱炭素(Decarbonization)と環境に良いエコ(Eco)を含む"デコ"と活動・生活を組み合わせた新しい言葉

◆ ロゴ・メッセージ・アクション



◆ “くらしの10年ロードマップ”を策定
進捗フォローアップを行い計画的に実行

デコ活アクション

まずはここから

- デ** 電気も省エネ 断熱住宅
- コ** こだわる楽しさ エコグッズ
- カ** 感謝の心 食べ残しゼロ
- ツ** つながるオフィス テレワーク

「デコ活」を冠した組織・制度について

○関連する組織・制度に「デコ活」を冠した愛称を付け、ワンメッセージで「デコ活」の普及を後押しします。

組織・制度	愛称
環境省 脱炭素ライフスタイル推進室	デコ活応援隊
新国民運動・官民連携協議会	デコ活応援団
全国地球温暖化防止活動推進センター	デコ活ジャパン
地域地球温暖化防止活動推進センター	デコ活ローカル
地球温暖化防止活動推進員	デコ活推進員

「デコ活アクション」について

- 具体的な取組の事例として、3分野、計13種類の「デコ活アクション」を決定しました。
- 以下の事例に限らず、暮らしが豊かになり、脱炭素などに貢献していくものは、すべて「デコ活アクション」です。

分類			アクション
まずはここから	住	デ	電気も省エネ 断熱住宅 （電気代をおさえる断熱省エネ住宅に住む）
	住	コ	こだわる楽しさ エコグッズ （LED・省エネ家電などを選ぶ）
	食	カ	感謝の心 食べ残しゼロ （食品の食べ切り、食材の使い切り）
	職	ツ	つながるオフィス テレワーク （どこでもつながれば、そこが仕事場に）
ひとりでCO2が下がる	住		高効率の給湯器、節水できる機器を選ぶ
	移		環境にやさしい次世代自動車を選ぶ
	住		太陽光発電など、再生可能エネルギーを取り入れる
みんなで実践	衣		クールビズ・ウォームビズ、サステナブルファッションに取り組む
	買		ごみはできるだけ減らし、資源としてきちんと分別・再利用する
	食		地元産の旬の食材を積極的に選ぶ
	移		できるだけ公共交通・自転車・徒歩で移動する
	買		はかり売りを利用するなど、好きなものを必要な分だけ買う
	住		宅配便は一度で受け取る

「デコ活」における連携・サポートの例

○「デコ活」における主な連携・サポートは、以下のとおりです。

○詳細は、ポータルサイト（<https://ondankataisaku.env.go.jp/decokatsu/>）をご確認ください。

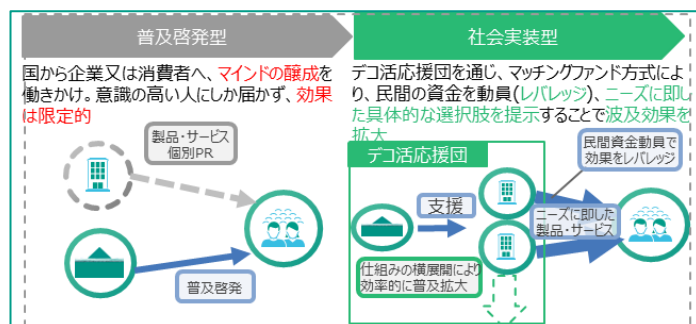
●「デコ活応援団」による連携・マッチング



●脱炭素型「取組、製品・サービス」の発信



●「補助金」による社会実装型取組支援



●「デコ活応援隊」による後押し・サポート



官民連携でみなさまの行動変容・ライフスタイル転換を後押しします！

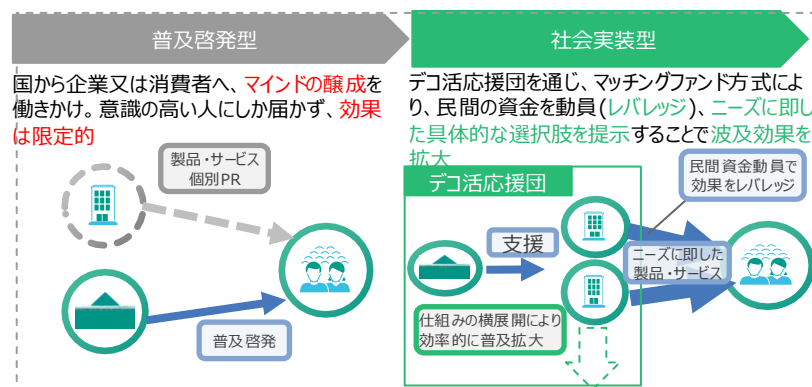
「デコ活応援団」（官民連携協議会）の役割・機能

- 官民連携で「デコ活」の効果的な実施につなげるため、プラットフォームとして、企業・自治体・団体等による官民連携協議会を国民運動と同時に立ち上げ、一体的な展開を図っています。
 - 「デコ活応援団」の位置付け＝国・企業・自治体団体等の連携・実践の場＆情報共有・意見交換の場
 - 官民連携プロジェクトの組成から実施、フォローまで事務局等がサポートします。
- 参画者間のマッチング・案件形成・情報発信・補助金**などの支援が可能ですのでお気軽にご相談ください！



「デコ活」推進に係る社会実装型取組等支援

マッチングファンド方式により、民間の資金やアイデア等を動員し、「新しい豊かな暮らし」を支える製品・サービスを効果的・効率的に社会に実装するためのプロジェクトを実施。※補助率：定額（1/3相当）



※詳細は、[一般社団法人地域循環共生社会連携協会](http://rcespa.jp)
(一般社団法人低炭素社会創出促進協会) (rcespa.jp)
からご確認ください。

「デコ活宣言」/取組、製品・サービスの発信/「#デコ活」による発信



- 「デコ活」推進のため、組織（国・企業・自治体・団体）、個人単位で「デコ活宣言」を呼びかけています。
- 「デコ活宣言」を実施いただくことで、ダウンロードツール等をご利用いただくことができます。
- ポータルサイトにおいて、「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを支える取組、製品・サービス」の登録を広く受け付けています。
- 登録いただいたものは、ポータルサイトやSNS等で発信します。
- 日々の「デコ活」の取組を「#デコ活」としてSNS等で発信し、広めていただくこともお願いしています。

脱炭素に資する取組、製品・サービス

デジタルも駆使して、多様で快適な **働き方、暮らし方** を後押し（テレワーク、地方移住、ワーケーションなど）



1

脱炭素につながる新たな暮らしを支える **製品・サービス** を提供・提案



2

インセンティブ や効果的な情報発信（気づき、ナッジ）を通じた行動変容の後押し（消費者からの発信も含め）



3

地域 独自の（気候、文化等に応じた）暮らし方の提案、支援



4

デコ活宣言

20,788主体
環境省として宣言したほか、企業・自治体・団体・個人が宣言
令和8年8月7日時点

宣言①：製品、サービス、取組展開を通じてデコ活を後押しします！

宣言②：生活・仕事の中で、デコ活を実践します！

#デコ活

（コメントのサンプルです。コピーしてご活用ください）

デコ活しました！

<https://ondankataisaku.env.go.jp/dekokats>
u/ #デコ活

ポータル登録数：723件
（デジタル関係：100件、製品・サービス：341件、インセンティブ：210件、地域：72件 ※重複有）
令和8年8月7日時点



「くらしの10年ロードマップ」の策定

○デコ活応援団における協議やパブリックコメントの内容を踏まえ、2024年2月に「くらしの10年ロードマップ」を策定しました。

策定の背景

「新資本主義実行計画（R 5.6.16閣議決定）」に基づき、国民のみなさまの行動変容・ライフスタイル転換を促し、脱炭素につながる新しい価値創造・豊かな暮らしを実現するために必要な方策・道筋を示すべく策定しました。

※「新資本主義実行計画（R 5.6.16閣議決定）」における記載内容

「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしをつくる国民運動」を通じ、国民・消費者の行動変容・ライフスタイル変革等を促すため、グリーンライフ・ポイントやナッジの活用等も含めたロードマップを2023年度中に策定する。」

分野と今後

絵姿に基づき、暮らしの全領域（衣食住・職・移動・買物）を7つの分野に分けました。

① 住[外]	住宅の省エネ化・再エネ導入（断熱化、太陽光発電等）	② 住[内]	エコグッズの選択（LED、家電、給湯、節水等）	③ 衣	クールビズ・ウォームビズ、サステナブルファッションの実践	④ 買・食	地産地消、適量購入・食べきりごみの削減・分別	⑤ 職	テレワークの実践	⑥ 移	電動車の購入 環境負荷がより少ない移動手段の選択	⑦ 基盤	情報（教育・ナッジ）インセンティブ
-----------	---------------------------	-----------	-------------------------	--------	------------------------------	----------	------------------------	--------	----------	--------	-----------------------------	---------	-------------------

進捗は毎年、フォローアップを行い、必要に応じて取組・対策を強化します（PDCAサイクルの着実な実施）。なお、その際、必要な項目は「家庭CO₂統計」等を利用し、効果的かつ効果的な調査や把握を行います。

また、中間地点で進捗評価を行い、必要に応じてロードマップを見直します。

「くらしの10年ロードマップ」(概要)

○初めて**国民・消費者目線**で、**脱炭素につながる豊かな暮らしの道筋**（課題と仕掛け）を**全領域**（衣食住・職・移動・買物）で明らかにし、**官民連携**により行動変容・ライフスタイル転換を促進します。

国民にとってのボトルネック

意欲

導入メリット・意義が不明
昔のイメージのまま敬遠
手間・難しさの忌避感
問題への理解・関心不足

実践

初期費用・大規模支出
導入に時間がかかる
機会・情報が限定・不十分
慣習・制度が実践を妨ぐ

課題解消に向けた仕掛け（主な対策）

2024~2026

2027~2029

2030~

メリット・意義、最新情報を導入機会と同時に伝達（商業・公共施設等を体験・体感の場に）

新築/既存住宅リフォーム+太陽光発電設備・高効率給湯器等のパッケージ化

住

商品・ブランド別のエシカル度の見える化

衣

サステナブルツアー（出張・旅行 等）、カーボンオフセット付き旅行保険等

移

科学的情報等を行動とセットで提供（DXを活用したワクワク感、楽しさなどの動機付け）

基盤

サブスクリプション型サービスやPPA・リース、環境配慮型ローン等の提供拡大

公的支援情報を分かりやすく提供し、複数補助制度の一括申請の受付を拡大

住

通常リフォームに合わせた+αの断熱、家電販売時の省エネ・再エネのパッケージ提案

住

リペア、アップサイクル・染め直し等、衣類の交換会、回収リサイクルの場の拡大

衣

フードシェアリング、フードドライブ・フードバンク活動、エシカル商品サービス等の拡大

買・食

テレワークとマッチするよう必要に応じてルール見直し、必要なサービス・インフラ・情報提供

職

データ活用した行動見える化、ダイヤモンドレスポンス、住民・従業員へのインセンティブ拡大

基盤

費用対効果に優れた気付き・ナッジの提供

基盤

行動制約

行動変容・ライフスタイル転換



環境省 地球環境局 デコ活応援隊(脱炭素ライフスタイル推進室)

〔隊長(室長)〕 細貝

〔担当〕 難波、郡司、水品、海上、堀越、岩尾、鈴木、若松、中野、
大津、山内、中村

住所:〒100-8975 東京都千代田区霞が関1-2-2

E-mail:decokatsu@env.go.jp TEL:03-5521-8341(直通) ※土日祝除く



デコ活応援団事務局(EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社(EY))

E-mail:decokatsu.office@jp.ey.com TEL:050-3033-2248 (直通)※土日祝除く

※デコ活応援団に関することはなんでもご連絡ください！



デコ活ローカル (地域地球温暖化防止活動推進センター)

全国に59か所、どこでも相談が無料でできます。各デコ活ローカルの連絡先等は[こちら](#)から！

デコ活ジャパン (全国地球温暖化防止活動推進センター)

※全国各地で身近な相談先をお求めであればこれらの機関にご連絡ください！